

平成22年4月26日現在

研究種目：基盤研究（B）海外学術調査

研究期間：2007年～2010年

課題番号：19401032

研究課題名（和文）北メソポタミアにおける粘土板文書の探究
－シリア、テル・タバンの歴史考古学的調査－研究課題名（英文）Study of the Clay Tablets on the Northern Mesopotamia
-Archaeological Research of Tell Taban, Syria -

研究代表者 沼本 宏俊 (HIROTOSHI NUMOTO)

国土館大学・体育学部・教授

研究者番号：40198560

研究代表者の専門分野：考古学（メソポタミア考古学）

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学、アッシリア、粘土板文書、楔形文字

1. 研究計画の概要

本研究は、シリア北東部のテル・タバンの遺跡の発掘調査と出土する楔形文字史料の解説・研究を主眼とする。

同遺跡は古バビロニア時代（前19-18世紀頃）、中期・新アッシリア時代（前13-11世紀頃・前9-7世紀頃）の北メソポタミア地方の統轄拠点として繁栄した古代都市“タバトゥム/タベトゥ”である。研究代表者は2005年から同遺跡の発掘調査を実施し、日本調査隊では初の大規模な粘土版文書板を発見した。これまでの調査成果は同地方の暗黒時代前2千年紀の解明に向けて大きく貢献している。

研究期間内には、これまでの調査で蓄積した成果を更に深化すべく、発掘調査を継続し新たな文字史料の発見と建築遺構の全容解明、及び以前の調査で出土した未整理の粘土板文書の解説・研究を実施する。特に2005～2006年の調査で出土した中期アッシリアの約300点の未整理の粘土板文書と本研究期間内の調査で出土する文字資料の解説と分析を行い、それらの成果をとおしてアッシリア史の解明に向けて国内外の研究者が渴望している新情報を提供する。本研究結果からテル・タバンのアッシリアの中央政権と具体的にどのような従属関係あったのかを究明し、帝国の形成過程とアッシリア帝国の興亡史と人類初の帝国主義の実体の解明に貢献する。

2. 研究の進捗状況

(1)発掘調査：主に新・中期アッシリア時代の層位の発掘に焦点を置いている。

新アッシリア時代：2007年度には同時代の公共的巨大大日乾煉瓦造建物跡を発掘し、定礎ブロンズ像、タバンの初同時代の楔形文字史料等を発見し、タバンの新アッシリア時代もシリア北東部の統轄拠点であったことを実証する大きな証拠を提示することができた。

2009年度も同建物跡の調査を実施し、多大な成果を得た。本年度の調査でも同建物跡の詳細の究明と文字史料の発見に努める。

中期アッシリア時代：2008年度の北側地区の調査では中期アッシリア時代の連続した層序が認められ、タバンの歴代王が構築した建造物の特定やアッシリア時代の標準となる土器編年を確立するうえで有効な資料を得ることができた。西側地区では日乾煉瓦造の王宮跡の発掘を2005年以来継続し行っている。最大の発見は、2008年度に医術・呪術粘土板文書が出土したことである。この文書が出土した近くに、宗教・文学文書を集めた文書庫（図書館）が存在する可能性が非常に強く、将来こうした文書庫が発見されれば、タバンの調査では最大の成果になる。したがって、今後の調査ではこの文書庫の発見に重点を置くことにした。2009年度も王宮跡と一連の建物跡の発掘を行い、新たな部屋の一部を検出した。注目すべきは粘土板文書群がこの部屋の床面から出土したことである。取り上げた粘土板文書群の中には、少なくとも100点以上の文書が詰まっていると思われる。本年度の調査期間中に解体し清掃と解説を開始する。学会待望のこれまでの出土文書にはない新情報の提供が大いに期待される。タバンの調査の中核である王宮跡の発掘は、本年度以降も継続する。

(2)出土楔形文字史料と解読研究:2007年度の調査で発見した楔形文字史料は計52点で、中期アッシリア時代の円筒碑文、煉瓦碑文の解読から、タバンの歴代王の王統と足跡の全容解明に向けての様々の新事実を得た。文字史料には、これまで出土した資料の欠落を補う多くの新情報が認められた。2008年度の調査では46点の中期アッシリア時代の楔形文字史料を採集した。連携研究者の山田、柴田は7月にドイツで開催された国際アッシリア学会で、タバン調査で出土した文字史料の成果報告を行い欧米研究者達から注目を浴びた。2009年度の調査では、計49点の楔形文字史料を採集した。タバン出土の文字史料は欧米学会から高く評価されており、山田、柴田はフランス人研究者と当年度から同史料の共同研究を開始した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。理由:各年度の調査で楔形文字史料を必ず発掘し、現地で解読作業を行い、その成果と最新情報をいち早く公表している。本邦初のメソポタミア地方の楔形文字使用期の歴史時代における考古学と文献学の共同研究が定着し、着実に成果をあげ研究目標到達に向け邁進している。

4. 今後の研究の推進方策

2010年度もテル・タバン遺跡の発掘調査を継続し、新たな楔形文字史料の発見に努める。前年度の調査で出土した粘土板文書群の解読に重点を置き、最新情報を迅速に国内外に提供する。2005年度の調査で出土したダマスカス博物館に保管されている中期アッシリアの粘土板文書約300点は未解読のため、これらの文書の解読を早急に開始する必要がある。本年度の調査で解読を完遂することは不可能で、本研究期間終了後も継続し行う予定である。テル・タバン遺跡の発掘調査も本研究期間終了後も継続する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

Numoto H. 2009 “Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavation” *Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavations and the study of cuneiform Texts*, 1-86.

Shibata D. and Yamada S. 2009 “Texts from the 2007 Excavations at Tell Taban: A Preliminary Report” *Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavations and the study of cuneiform Texts*, 87-109.

Numoto H. 2008 “Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria (6), Preliminary Report of the 2006 Season of Work”, *al-Rafidan*, Vol. XXVIII, 1-46.

Yamada S. 2008 “A Preliminary Report on the Old Babylonian Texts from the Excavation of Tell Taban in the 2005 and 2006 Seasons: The Middle Euphrates and Habur Areas in Post-Hammurabi Period”, *al-Rafidan*, Vol. XXVIII, 47-62.

Numoto H. 2007 “Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria (5), Preliminary Report of the 2005 Summer Season of Work”, *al-Rafidan*, Vol. XXVIII, 1-63.

[学会発表] (計 20 件)

沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡－シリア・テル・タバン遺跡の第9次発掘調査(2009年)」日本西アジア考古学会主催第17回西アジア発掘調査報告会。2010年3月28日。於サンシャイン文化会館。

沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡－シリア・テル・タバン遺跡の第8次発掘調査(2008年)」日本西アジア考古学会主催第16回西アジア発掘調査報告会。2009年3月14日。於サンシャイン文化会館。

沼本宏俊 「くさび形文字文書の発掘－シリア・テル・タバン遺跡の発掘調査」栃木県オリエント協会第35回栃木県オリエントセミナー。2008年6月7日。於栃木県立博物館。

沼本宏俊 「アッシリア帝国の拠点遺跡－シリア、テル・タバン遺跡の第7次発掘調査(2007)」日本西アジア考古学会主催第15回西アジア発掘調査報告会。2008年3月15日。於池袋サンシャイン文化会館。

沼本宏俊 「粘土板文書の発掘－シリア、テル・タバンの調査－」、日本オリエント学会第281回定例講演会。2007年5月26日。於東京天理教館。

[図書] (計 5 件)

Numoto H. (ed.) 2009 Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavations and the study of cuneiform Texts, 1-109.

Numoto H. (ed.) 2008 Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2005 and 2006 seasons of excavations and the study of the Old Babylonian and middle Assyrian Texts, 1-180.